

6週目まで) 26人、2歳児が6人、3歳児、4歳児は数人づつが待機している。乳児の待機リストは、いつでもたいてい長いとのことである。この保育所では、乳児を8人まで受け入れるように認可されているが、ディレクターの方針で6人までにしている。確かに、他の保育所の乳児室に比べ、ゆったりとしている印象を受けた。そうすることによって、乳児への負担が少なく、親の満足度が高くなり、続けてこの施設を利用することにもつながるからである。また、スタッフも働きやすい環境を保つことができ、長く勤めてくれるからである。頻繁にスタッフが変わるのは、保育所としても、親のたちばかりも、よくないことである。一番避けたいことである。Ingersoll では、乳児保育を始めて以来、ずっと同じスタッフが担当している。

財政的には乳児の部門は赤字になっているが、乳児保育は、地域への貢献と考へ、そこに通った子どもがそのまま継続して、5歳までこの保育所を利用してくれることが結果的には「利益」になると考えている。

ディレクターの方針は、親ととにかくよく話すことである。80人の子どもを保育しているが、親全員を知り、全員に Parents and Children という育児雑誌を購読している。これは、特に、彼女には気軽に相談できない若い親たちとの会話のきっかけになっている。さらに、保育所には、子育て関連の本や栄養、ストレスについての情報も用意し、貸し出している。

この仕事をしていて一番うれしいのは、時間と共に、親たちがだんだんと「親らしく」なっていくことである。はじめは、どうしたらわからず、おどおどしている親も、保育所にくることで、だんだんよい親になっていく。入所したてのころは、送り迎えにきても、スタッフと顔を合わせないようにしている親も、根気よく話しかけることを続けていくと、だんだんと親の方から、話してくるようになる。

残念なことに、親には、いつでも保育所にきて、どんな活動へでも参加してくれ、と言っているが、ほとんどの親はこない。時々、parents' day を開き、一緒にお昼やおやつをたべてもらうようにしている。しかし参加率は低い。どちらかという、子どもを置いていって、あとは任せておきたい、と思っている親が多いようだ。

(2) 教会運営の保育所

Bethel Childcare and Ministry では、詳しい話を聞くことはできなかったが、若い夫婦と一歳の子どもの見学に来ていたので、一緒に見学することができた。四角い殺風景な大きな建物であるが、明るかった。先生が変わるレートは割と遅いほうであるとのこと。3年はあるとのこと。いまは、特に、前よりもいつくようになったそうだ。しかし、アルバイトの大学生の場合、卒業とともに行ってしまうので、そこでは変わる場合もある。州の認可ではない。認可であると、聖書などを使えないからである。しかし、児童と先生の割合などは、州の規程通りにやっている。また、検査なども、州によって行われているので、ちゃんとしているようだ。聞くところによると、彼らは二人ともパデューの学生で、いま

までは時間割などの調整で、二人でシェアしてきたが、1月から二人とも4年生になるので、週に数回は子どもを預けないとやっていけないため、保育所探しをしていた。

Grace United Methodist Church- Grace Day Care は、保育所だけで70人程度で、教会の建物の一部である広さに比べ、子どもの人数が多いという感じをもった。教会自体が、広い土地に立っているため、外は緑に囲まれており、インタビューした親のなかには、それが選んだ理由になっていた。ここでは、3歳児からしか入れないため、待機リストは、今までの最高でも、10人程度であった。

Bethany childcare and preschoolers は、Presbyterian の教会の建物で、住宅地の中にある。周りの家はそれほど大きくない。ここでも、3歳が最小年齢であるためか、待機児はなく、空きがいくつかある。この保育所では、迎えに遅れた際の罰金についてなど、規則が印刷された張り紙が多くあった。半分が地下にもぐっている階が保育所になっていて、特に飾り付けなどもしておらず、質素な感じであった。

Church of Nazarene によって経営されている Kiddie College は、ラファイエット市の東部、線路を越えて、家もほとんどなくなった野原のような所にある。Kim Golden さんが元気良く紹介してくれた。他の教会関係の保育所より、明るい感じのところだった。

保育所の雰囲気は、それぞれ違い、ちょっとしたことで印象がかわってしまうが、それぞれ特徴があり、親、こどもとの相性や空きや所在地によって選んでいくと言える。(保育所の選んだ理由等については、インタビューデータをもとに、来年度報告したい。)

最後に、家庭保育所をみってみる。一般に、デイケアセンターの人に言わせると、品質管理ができていなく、中で何が起きているかわからない、ただテレビを見させているだけ、とう印象をもっているようであった。

(3) 家庭保育所

(a) 家庭保育所 Daycare Unlimited の保育ママで、地域の認可家庭保育所を紹介する冊子を発行している Joann Gregory さんに、家庭保育所の利点と欠点、地域の育児環境、保育ママとしての子育て観についてインタビューし、家庭保育現場の見学をした。

ジョアンの所は、ラファイエット市南部のふつうの家だが、日中は一階の全てを「保育所」として使用しており、かなり広々とした感じである。ジョアンがひとりでやっているが、大学の一年生がアルバイトで11時から5時まで来ている。ジョアンは、とても気さくな人で、かなり突然の訪問であったにも関わらず、快く迎え入れ、昼寝中の子供達が昼寝中だったこともあり、ゆっくりと話をしてくれた。自分がまとめた地域の家庭保育所のブックレットや、州の福祉事務所に提出するフードプログラム関係の書類も出してくれた。

彼女が保育所を始めたきっかけは、やはり自分で必要だったからである。以前、工場に勤めており、2人目を上の子どもが7歳のときに生んだが、二人とも一緒にみてくれるところが見つからなかった。経済的にも、2ヶ所に預けるのとうてい無理だったので、工場

をやめ、自分でベビーシッターをすることにした。それを決めたら、勤め先の事務所の一や、近所からも依頼があり、そのまま始めた。どうせやるなら、ということで認可を申請した。

- ・融通性：一人の母親の仕事時間が、工場の関係でかわった。その人にあわせて、5時半から始めるようになった。多くが7時半にきて、3時半に帰る。夫婦なので、一人がだめならもう一人がくる。迎え時間の問題はない。

- ・州の認可は、12人保育できるライセンスをとっている。家庭保育用には、15人のライセンスもあるが、3人増やすためには、家にスプリングクーラーをつけるなど、かなり大変なので、小さい方でやっている。保育所を始めてから13年間、休んだのは3日だけで、病気でも休まない。

- ・料金は、1週間70ドル、子どもが2人だと100ドル、年齢によって変えていない。乳児としては、最低の費用ですむ。

- ・デイ・ケア アンリミテッド、いう名で、家庭保育所のリストを冊子にまとめた。病院にコンタクトをとり、冊子を売りたい、といったら認可されている保育所のものであればよいと言われ、認可されているところだけを掲載した。

- ・公的機関による検査

年に一度福祉事務所からの監察、フードプログラムに入っている場合は、年に4回食事の時間に指定のものを食べさせているかどうか、冷蔵庫の中に温度計があるかなどをチェックにくる。

- ・引越し以外で保育所をやめた人はいない。赤ちゃんのときからきて、学校に行くまで世話になる、という第二の母親の役をしていると思っている。

- ・一日のスケジュールは、6時半開所、8時半まで子どもが来た順に朝食を出す。その後、プリスクール的な活動をし、9時半からは外や中で遊ぶ。11時半にランチ、12時半に昼寝、2時半に子供達を起こし、おやつを食べる。3時におやつが終え、3時半には迎えがきて、帰り出す子どももいる。最後の子どもは5時半に帰る、と、聞いてみるととても忙しく過ぎていくとのことだ。

(b) **Bright Beginning** は、ラファイエットの東側の住宅地にあり、数十メートル先は林のようになっている。1階建ての家で、保育に使っているのは、12畳程度のスペースであった。彼女は、もともとは、デイケアで働いていたが、子ども達一人一人をよく知ることができず、移転もあるので、それがいやで自分で始めることにした。合計12人の子どもを預かっている。午前中だけパートタイムのアシスタントとして年配の女性が来ていた。

(c) **SMALL WORLD CHILD CARE** の人の話しでは、家庭保育所の長所は年齢の違う子どもが一緒にいられることで、それを通してお互いによく学ぶことができるという。成長のスピードはそれぞれ違うのだから、デイケアのような保育施設が州の認可を受ける時に、

年齢別に子供を分けることを条件にしていることには反感を持っている。また、大きな保育施設は、先生がちよくちよく代わり、子供達が、来週は誰がいるのかわからないのは良くない、供のケアは、家庭的な雰囲気の小規模なところが理想的だと考えている。また、親からそんなに長時間離れているべきでないので、9時間半以上は預からないという契約を親と交わしている、など、いろいろな考えを述べた。

家庭保育でよく心配されるのは、多くの場合、ひとりでやっているの、病気になったりした場合、どうなるかということであるが、彼女は、この24年間、一度だけ病気で、自分の母親に替わってもらった以外は、ひとりでやっているとのことである。今は義理の息子の労働時間がフレキブルなので、必要があれば頼むことができるが、そういうことはまだないとのこと。また、毎年夏と冬、二週間の休みをとっているという。休業のことは、前もって親に伝え、それぞれの親が祖父母を呼ぶなどして、その時の保育をアレンジメントしているとのことだ。

(d) King's Kids Home Child Care の人も、同様のことを語っていた。規模の施設は子供には向かない、デイケアのような施設は、子供がいるべき場所ではなく、本来は、家が理想であると考えている。したがって、自分の場合は、子どもが生まれたときから、自分が面倒見て、2つめの家庭のようにしている、とのことである。デイケアの欠点として、例えばおむつが取れていることを要求するが、自分の所では、強制しない。自分自身も、娘をデイケアセンターに入れていたが、全然面倒見手もらっていないという印象だったので、自分で家庭保育をするようになった。

(4) 自主運営学校

自主運営学校 New Community School は、電話帳の保育施設には掲載されていなかったが、人の紹介で訪ねた。一般の学校の方針には賛同できない親たちが集まって、町の一軒家を買って、1990年に学校を作った。費用は、2、3歳が5日間利用すると月430ドルである。

7時半から8時半までは就学時間前ケア、8:45分から3時までが学校、その後は就学時間後のケアで、5時半に閉校している。一番小さな子は2歳である。未就学児は、ほとんどの場合、毎日ではなく週に数回利用しているとのことである。全部で40人程度の子どもがいる。

自由に親の方針で物事を決めているので、規制はない。その意味で、融通がきく。保育時間などもお互いに早く行く時は、クラスメートの家に子どもを連れていき、一緒に連れていってもらい、帰りもそのようにしたりする。活動内容もさまざま、日本語教育のインターンに日本語、大学の院生にスペイン語、親の得意なものなどを親がきて教えたりしている。親たちは、費用をはらうだけでなく最低月に何時間かはボランティアで学校で働くことになっている。

親同士で意見が一致しなかったり、誰でも歓迎しているため、問題のある親がくるときもあり、その対処、ときどき支払いが遅れる家があること、そして、財政的な問題があると。しかし、大体はうまくいっている。

ディレクターは2人で、ジョブ・シェアリングの方式でやっている。どちらも、自分の子どもをそこに通わせている。そのため、仕事に、子どもがきたりすることもあるが、それだからこそ安心していられ、そこが気に入っているとのことである。

ラフィエット地域には、New Community School の他、ヨーロッパ諸国や日本にもあるモンテソーリ学校もあった。そこでは、18ヶ月から3歳までの保育と3歳以上6年生の教育を扱っている。しかし、保育施設ではないため、3歳以下は全日預かることはできない。3-6歳は、2310ドル年間（9ヶ月）、7時半から5時半の場合は、月540ドルである。

まとめ：

家庭保育所の方は、大きな施設が子どもに向かないこと、規則によって、年齢でクラスを分けたり、オムツの取れていることを強制したりすることを好まず、家庭的な雰囲気の中で子どもを保育すべきである、と考えていることが伺われる。

また、始めたきっかけも、自分が勤めていて、思うような保育施設がなかったことや、大きな所に勤め、その時の子どもとの関係に満足できなかったからというように、自分の経験に基づいたものが多い。

家庭保育所の方が、迎え時間などについては、融通が利くようである。ある家庭保育所では、子供をあずける親のひとは、最近離婚したばかりで、迎えに遅れるようになったが、延長時間分を支払い、預かっている。また、king's kids home child care でも、親が遅れても、自分に用事がなければ待っていてあげる。そうでないときは、今日は絶対無理、と朝のうちにドアに張っておく。最近一人、いつも遅い親がいるが、その分お金を多く払っているしクリスマスの時など、プレゼントもくれるので、いいと思っているとのこと。このように、大きな施設では無理な融通性もあるようである。

しかし、大きなデイケアでは家庭保育所ではできない「早期教育」に力をいれているという利点もある。インタビューした親で、家庭保育所も試したがデイケアを選んだ人の中からは、家庭保育所では大人の目しかないので不安である、見学に行ったらただ子供達を一日中テレビの前に座らせていた、という声もあった。

ラファイエット地域 保育施設一覧1

認可保育所	保育時間 ※2週未満児は別	スタッフ	子どもの人数	開始年	基準	子どもの年齢	費用 注動	親の持ち分など
Burgett's Child Care Center	6:30-17:30 8:00-17:00	23人フル、5人パート	160人 待機児なし	1971年	3回 自前のコック FPでないがボランティアに依る。 州が年2回チェック、台所は精製	3歳から9歳	2歳142ドル、3歳-112ドル 2、3歳246ドル、3歳2人208ドル 半日18ドル、フル31ドル	ほとんど二人親 就労形態はさまざま 遅れたら15分で5ドル 二人親もいるが、他も 複数10%減額
Children's Discovery Center	6:00-18:00 7:00-8:00; 15:00-18:00	フルタイム 人、 パートタイム 人	90人	?	4回	3歳以下25-30人 6歳以下45-50人	2歳96ドル、3-5歳55ドル 27-30人カウンティから 6人タイトルXX	
Ingersoll Child Care Center	5:45-18:00 7:30, 17:30	乳児2, 1; 幼児2, 1; 2歳3, 2; 3-4歳2, 1 4-5歳1, 1	80人 待機乳幼児26	1996年	3回	3ヶ月-12ヶ月6人、 12-24ヶ月10, 24-30ヶ月15 3-4, 5年18, 4, 5-23人	乳児185, 幼児120, 2歳105ドル 3-4歳100ドル	
Kid's Connection NAECPA, NSESE	6:00-18:00 7-7:30, 16:00-17:00	27人教員とTA 7人補助教員	115-120人 最高で待機乳児50人	1992年	4回 FP	6週間から4, 5歳まで	乳児126, 幼児111, 2歳98ドル 3-5歳82ドル	多様
Kindercare Learning Centers (West Lafayette)	6:30-18:00 7:30-8:00, 16:30-17:30	11人フル、5人パート ディレクター2人	95人	1981年	3回, kindercare guideline	幼児10, 2歳15人、 3歳前半7, 3歳後半12, 年少19, 年長15, 就学25	united way, charity fundedから援助 幼児134ドル、学童62ドル、複数10%減額 遅れたら分1ドル 州から援助受ける親もいる	顧客を持った子供あり 大体が二人親 フルタイム勤務
Kindercare Learning Centers (Lafayette)	5:30-18:00 5:30-7:00; 16:00-	10人フル、5人パート ディレクター2人	80-90(100人認可) 各クラス2, 3人待機	1973年	4回	幼児、2歳	幼児120ドル、学校年齢79-100ドル	半分1人親 自動車工場勤務多

FP: food program

ラファイエット地域保育施設一覧2

認可保育所	保育時間 送り迎え時間	スタッフ	子どもの人数	開始年	費用	子どもの年齢	費用	新の特色など
Lafayette Day Care *	6:00-18:00	州規程どおり	調査漏れ	1969 FP	3-6歳	Tippecanoe County Child Care, Inc施設に共通 費用はスライディング・スケール 親の収入が週400ドル以下の場合:		
Tippecanoe Child Care South *	6:00-18:00	州規程どおり	30人 2歳7-10人待機 3歳数人待ち	1989 FP	2歳15人 3歳20人	乳児134、幼児105、2歳100ドル 3歳83、学童50ドル United Wayによってスポンサーされているため、		
Tippecanoe Child Care East *	6:00-18:30	州規程どおり	63人	1985 FP	2歳15人 3歳20人、4、5、6歳28人	親の収入の応じて保育費用の調整が可能。		
Dennis Burton Child Care *	24時間	州規程どおり	108人	1990 FP	6-8週7人、幼児9人、 2歳14人、3歳22人、 4歳以上53人			
Sunrise Child Care *	6:30-17:30	州規程どおり	調査漏れ	FP	3週時から24ヶ月			
Tippecanoe Child Care Downtown	6:00-18:00	州規程どおり	71人	1998 FP	6週間から6歳			
Rising Star Montessori School (自主運営学校)	7:30-17:30/時間いろいろ 学校8:20-11:20、-15:15	1クラスにトレーニングを 受けた人1人、1人7:30分	調査漏れ	1980 FPでないが、それに入っている ところから推定	18ヶ月から3歳、3歳から6歳 フルは3歳以上という決まりあり	2310ドル年間、午前2310ドル、 一日400、全日540ドル月		二人親

* Tippecanoe County Child Care, Inc.

FP: food program

ファイエット地域 保育施設一覧3

教会経営の保育所	保育時間 送迎迎え時間	スタッフ	子どもの人数	開園年	運営	子どもの年齢	費用 送迎	親の特色など
Bethany Child Care & Preschool	6:00-18:00 7:30-8:00; 4:00-4:30	2ディレクター、先生6	58人	7/31-1969年 保育園92年	おやつ2回 全日の子はランチ持参	3歳から5年生まで (プリ)3、4歳が週2回、 4、5歳が週3回)	保育80ドル、幼稚園全日60ドル 1-5年生50ドル、パート1時間4ドル 27-30人くらいcountyから援助	何人かは一人親 専業主婦数人
Bethel Childcare Ministry	7:00-17:30 7:45-5:10	2ディレクター、12フル、 12パート	99人	1993年	4回	1歳15人、2歳12人、2歳半12人 3歳17人、4歳12人、4歳半8人、 5歳6人、幼稚園17人	1から2歳107ドル、3-5歳97ドル 学齢児27ドル 2人10%引き、3人20%引き	1人親多い、 20代の数や 学生が多い、
Country Lane Baptist Daycare	6:00-18:00 7:30-8:00; 17:00-18:00	7人、4人、3人パート	35人 (8人は学校前後)	1994年	4回	2歳(5、2)、3歳(4、0)、4歳(5、2) 5歳(12、6)、学校後6、学校前2	フル80ドル、パート50ドル	ほとんど2人親
Grace United Methodist Readiness & Day Care	6:30-17:30 7:30; 3:00-5:30	12フル、14パート	65-70人 プリ95-90人 80人まで認可	1980年代	4回 州のガイドどおり 検査あり	3-9歳 待機児2、3人(10人が最高)	90ドル、(幼稚園児68ドル) 熱病代年間35ドル、日に18ドル	1/4がひとり親
Kiddie Kollege	7:00-17:30 7:00-8:30; 4:30	5人フル、パート数人	50-55人 1-5人の待機	1971年	3回 FP	3-5歳	70ドル(地域で最低) 20分選れたら10ドル	大抵二人親
Little Eagles Daycare Ministry	6:00-18:00 7:30, 17:30	6人フル、2人パート、	37人 待機最高15人	1995年	スナックのみ 全日の子はランチ持参	3ヶ月-14ヶ月4人、 3歳から4、5歳16人 残りは幼稚園児	乳児80ドル、2-12ヶ月75ドル 午前だけ45ドル、パート55ドル 選れたら51分1ドル	一人親あり 大半フルタイム勤務

FP: food program

ラファイエット地域 保育施設一覧4

認可家庭保育所	保育時間 送り迎え時間	スタッフ	子どもの人数	施設年 定員	子どもの年齢	費用 補助	家族の持ち分など
Agape Childcare	7:00-18:00 8:00-8:30; 5:00-5:30	1人、アシスタント1人 パプューの幼児教育専攻	10人	96年	4ヶ月から6歳、2、3歳が多い 迎えに遅れたら5ドル	3歳以下90ドル、3歳以上80ドル 州から援助受ける親あり	1人以上、二人親 ほとんどフルタイム共働き
Bright Beginnings	6:30-17:30 7:30; 17:00	1人、パート1人	12人 パート3人<学校の前後>	94年	7ヶ月から9歳(12週から可能)	80ドル; 学校の前後は60ドル 複数は10%割引	一人親、二人親は半々 皆フルタイムの親
Children Court Child Care	7:30-6:30	2人	12人	2000年-3回 閉所予定 FP	11ヶ月から6歳、人数均等	90ドルと食事代	
Daycare Unlimited	6:30-17:30 7:30; 15:30-17:30	1人、アシスタント1人	11人	85年	3ヶ月から5歳、2歳児が多い。	70ドル、2人なら100ドル 援助受けている親なし	
King's Kids Home Child Care	7:00-17:30 7:10-9:30; 16:00-17:30	1人、アシスタント1人	7フル、1パート 待機リスト使わない	79年	15ヶ月から5歳	80ドル、年齢が高いと65ドル 85ドルに値上げ予定。	一人親多い
Small World Child Care	6:30-5:00	1人	10人	3回 FP	3ヶ月半、18ヶ月、2-5歳(8人)		

FP: food program

CHILD CARE WAITING LIST APPLICATION

Center: _____ Date of application: _____

Mother: _____ Address: _____

Home Phone: _____ City/Zip: _____

Work Phone: _____ Place of Employment: _____

Father: _____ Address: _____

Home Phone: _____ City/Zip: _____

Work Phone: _____ Place of Employment: _____

Family Status: Single _____ Married _____

Number of children in family: _____ Number of children needing care: _____

Weekly Gross Income of Household: _____

Child care needed:	Monday	_____	a.m.	to	_____	p.m.
	Tuesday	_____	a.m.	to	_____	p.m.
	Wed.	_____	a.m.	to	_____	p.m.
	Thurs.	_____	a.m.	to	_____	p.m.
	Fri.	_____	a.m.	to	_____	p.m.
	Sat.	_____	a.m.	to	_____	p.m.
	Sun.	_____	a.m.	to	_____	p.m.

Program age enrolled? _____

① Names and Birthdates of children needing care:

- 1. _____ B/D _____
- 2. _____ B/D _____
- 3. _____ B/D _____
- 4. _____ B/D _____

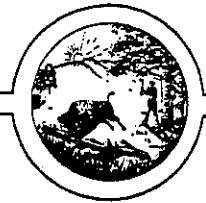
Is transportation a factor? _____

② Will you accept placement for one child? _____

③ Are children needing care currently enrolled at another site? Yes _____ No _____
Child: _____ Site: _____

④ How did you hear about Tippecanoe County Child Care? Yellow Pages _____ Friend/relative _____
Employer _____ Social Service Provider _____ Resource and Referral _____ Media _____
Other _____

Indiana Department of Education



Center for Community Relations and Special Populations
 Room 229, State House - Indianapolis, IN 46204-2798

MEMORANDUM

TO: Child and Adult Care Food Program Sponsors

FROM: Jerrie Newton, Director
 Division of School & Community Nutrition Programs

Jill Haller, Team Leader, Child Nutrition Programs
 Division of School and Community Nutrition Programs

RE: Income Guidelines for July 1, 1999 to June 30, 2000

The United States Department of Agriculture has issued the following income guidelines for the period of July 1, 1999 through June 30, 2000:

Family Size	Level for Free Meals Must be AT OR BELOW:				Level for Reduced Meals Must be AT OR BELOW		
	Annual Income	Monthly Income	Weekly Income		Annual Income	Monthly Income	Weekly Income
1	\$10,712	\$ 893	\$ 206		\$15,244	\$ 1,271	\$ 294
2	14,378	1,199	277		20,461	1,706	394
3	18,044	1,504	347		25,678	2,140	494
4	21,710	1,810	418		30,895	2,575	595
5	25,376	2,115	488		36,112	3,010	695
6	29,042	2,421	559		41,329	3,445	795
7	32,708	2,726	629		46,546	3,879	896
8	36,374	3,032	700		51,763	4,314	996
Each Additional Family Member Add:	+3,666	+306	+71		+5,217	+435	+101

- over -

Office Location - 251 East Ohio Street

THE TOTAL HOUSEHOLD INCOME STATED ON THE ENROLLED CHILDREN'S PARENT INCOME APPLICATION MUST BE COMPARED TO THE ABOVE GUIDELINES PRIOR TO THE SUBMISSION OF THE JULY 1998 CLAIM FOR REIMBURSEMENT.

Following is the definition of income:

"Income" as the term is used in this notice means income before any deductions such as income taxes, social security taxes, insurance premiums, charitable contributions, and bonds. It includes the following: (1) Monetary compensations for services, including wages, salary, commissions, or fees; (2) net income from nonfarm self-employment; (3) net income from farm self-employment; (4) social security; (5) dividends or interest on savings or bonds or income from estates or trusts; (6) net rental income; (7) public assistance or welfare payments; (8) unemployment compensation; (9) government civilian employee or military retirement, or pensions or veterans payments; (10) private pensions or annuities; (11) alimony or child support payments; (12) regular contributions from persons not living in the household; (13) net royalties; and (14) other cash income. Other cash income would include cash amounts received or withdrawn from any source including savings, investments, trust accounts, and other resources which would be available to pay the price of child's meal.

"Income" as the term is used in this notice, does not include any income or benefits received under any Federal programs which are excluded from consideration as income by legislative prohibition. Furthermore, the value of meals or milk to children shall not be considered as income to their households for other benefit programs due to prohibitions in section 12(e) of the National School Lunch Act and section 11(b) of the Child Nutrition Act of 1966(42 U.S.C. 1760(e) and 1780(b)).

If you have any questions, please contact Carol Markle, Sponsor Support Coordinator, at (317) 232-0850 or toll free at (800) 537-1142.

JPN/LJH/cjm

1000
9/84
Rev. 5/93

PREPARED BY: _____ WEEK OF: _____

MENU PLANNING GUIDE DAY CARE HOMES

Amounts for Ages		MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
1-2	3-5	FOOD ITEM	FOOD ITEM	FOOD ITEM	FOOD ITEM	FOOD ITEM
BREAKFAST						
Juice, fruit, veg.	1/2					
Cereal or bread	1/2					
Milk, fluid	1/2					
Other						
A.M. SNACK (2 OF 4)						
Meat or alternate	1/2					
Juice, fruit, veg.	1/2					
Bread or cereal	1/2					
Milk, fluid	1/2					
Other						
LUNCH						
Meat or alternate	1 1/2					
Vegetable	1/4					
Vegetable or fruit	1/4					
Bread or cereal	1/2					
Milk, fluid	1/2					
Other						
P.M. SNACK (2 OF 4)						
Meat or alternate	1/2					
Juice, fruit, veg.	1/2					
Bread or cereal	1/2					
Milk, fluid	1/2					
Other						
SUPPER						
Meat or alternate	1 1/2					
Vegetable	1/4					
Veg. or fruit	1/4					
Bread or cereal	1/2					
Milk, fluid	1/2					
Other						
EVENING SNACK (2 or 4)						
		* Same as A.M. and P.M. Snack				

Daily Participation and Time Log Sheet

NAME _____

Week of: _____

	Monday		Tuesday		Wednesday		Thursday		Friday	
	Time in	Time out	Time in	Time out	Time in	Time out	Time in	Time out	Time in	Time out
1.										
2.										
3.										
4.										
5.										
6.										
7.										
8.										
9.										
10.										
11.										
12.										
13.										
14.										
15.										
16.										
17.										
18.										
19.										
20.										
21.										
22.										
23.										
24.										
25.										
Totals									ATTEN.	ATTEN.

MENU FORM
CHILD CARE

Menus Written by :

Week #3	MONDAY		TUESDAY		WEDNESDAY		THURSDAY		FRIDAY	
	Food Item	Amount	Food Item	Amount	Food Item	Amount	Food Item	Amount	Food Item	Amount
AM SNACK (TIME: 6:30am)	Raisin Toast w/ Butter	1/2 slice	Pita Bread w/ peanutbutter	1/2 each	Bagel w/cream cheese	1 each	Animal Crackers	3 each	White toast w/ butter	1/2 each
	Apple Juice	1/2 cup	2% Milk	6 oz	2% Milk	6 oz	Kiwi	1/4 cup	2% Milk	6 oz
BREAKFAST (TIME: 8:30 am)	Apple Juice	1/2 cup	Banana	1/4 cup	Orange Juice	1/2 cup	Grape Juice	1/2 cup	Apple Juice	1/2 cup
	Corn Flakes	1/3 cup	Gris w/sugar, Milk and butter	1/4 cup	Pumpkin Muffin	1 each	Oatmeal w/ Apple Sauce and Raisins	1/4 cup	Plain Doughnut	2 each
LUNCH (TIME: 11:30am)	2% Milk	6 oz	2% Milk	6 oz	2% Milk	6 oz	2% Milk	6 oz	2% Milk	6 oz
	Chicken Strips	2 oz	Homemade Ham and bean soup	1 cup	Homemade Meat Loaf	1 1/2 oz	Baked Fish Sticks	2 oz	Turkey Bologna and American Cheese Grilled Sandwich	1 1/2 oz.
	Baked Beans	1/4 cup	Spinach (A)	1/4 cup	Corn	1/4 cup	Broccoli (A) (Frozen)	1/4 cup	Potato Salad	1/3 cup
	Broccoli w/cheese (A)	1/4 cup	Mixed Fruit	1/4 cup	Mashed Potatoes	1/4 cup	Pineapple (canned)	1/4 cup	Apple sauces	1/4 cup
PM SNACK (TIME: 2:30pm)	Roll	1 each	Cornbread	2" square	Rye Bread	1/2 slice	Macaroni and Cheese	1/3 cup	Rye Bread	1 slice
	2% Milk	6 oz	2% Milk	6 oz	2% Milk	6 oz	2% Chocolate Milk	6 oz	2% Milk	6 oz
	Goldfish crackers	1/4	Saltines	4 each	French Bread	1 slice	Banana Muffin	1 each	Peanut Butter Sandwich	1/2 each
	2% Milk	6 oz	Apple Juice	1/2 cup	Apple Juice	1/2 cup	2% Milk	1/2 cup	Grape Juice	1/2 cup

*Water offered with each meal.

*Menus subject to change for children with special dietary needs.

8/31/99

V. 個人へのインタビュー：出産と仕事の調整を中心として

1. インタビュー調査について

個々の家族がどのように仕事生活と（子どものいる）家庭生活を調整しているのかを把握するために、ラファイエット地域において実際に子育てしている個人（女性のみ）へのインタビューを行い、子育てや就労の状況をたずねた。インタビュー協力者は、つぎの方法で募った。800枚以上のインタビュー対象者募集のお知らせを作成し、アンケートのためにコンタクトした地域の保育施設で配布許可の得られた16施設、およびYWCA, American Red Cross, Community Ventures in Living Ltd., Habitat for Humanity, March of Dimes, United Way of Greater Lafayette など地域の社会サービス組織を通して、「募集のお知らせ」を掲示あるいは配布した。町のスーパーマーケットの掲示板も利用した。バドュー大学の女性学部および政治学部の知り合いにも声をかけてもらった。さらに、地域の新聞 Journal and Courier の「お知らせ欄」に、インタビュー対象者募集の記事を一週間掲載した。

これらの方法で協力者を募り、電話や電子メールでスケジュールを調整後、合計26人（うち、地域外1人）をインタビューした。インタビューしたのは6歳以下の子どもがいる既婚女性20人、末子の年齢が6歳以上の女性2人、既婚で子どものいない女性4人であった。また、就労形態は、専業主婦が3人、学生が4人、自営業が1人、フルタイム就労が7人、パートタイム就労が11人であった。

インタビューの内容は、次のとおりである。

結婚前、結婚後、妊娠中、出産前後、および子どもの生育の各段階において、どのような働き方をしてきたか、その働き方を選んだ（あるいは選ばざるを得なかった）経済的・規範的背景について、出産の時に誰から・どの機関からどのような援助を得たか、どのような保育施設を利用してきたか、利用した保育施設の評価について、保育施設の選択基準、親を含めたインフォーマル育児支援の実態、家庭内での夫との家事分担とその評価、子どもが産まれる前と後の家事分担の変化、子育てに関わるコストとそれに対する考え方、子どもを産むことや育てることに対しての考え方、出産の意思決定過程、子育て中の孤独感やストレスの状況やその解消法、労働することについての考え方、望ましい働き方などである。

インタビュー方法は、こちら側の用意した大ざっぱな質問をし、自由に語ってもらうセミストラクチャード形式をとり、主に協力者の自宅で実施した。数人のインタビューは協力者の職場や街のカフェなどで行った。

既婚女性4名には、子どものいる女性と比較するために、子どもを持つことや就労することについての考え方、家族のあり方に対する考えなどにしほって語ってもらった。

2. インタビュー結果の概要

全体的には、インタビューからはつぎのようなことが見られた。

- ・ 子どもを持つことについては、大半の人が持つのが当たり前、いつかは欲しい、という気持ちがあった。時期的には予想しなかった時の妊娠も多かった。
- ・ 出産時は、主にどちらかの母親の援助を受けていた。
- ・ 育児についても、ほとんどの女性が、自分あるいは夫の母親から育児支援を受けている。
- ・ 家事分担は、妻が 60-70%を担っているところが大半であった。家事をほとんどやらないという夫を持った女性はいなかった。また、すべてを平等にやっているカップルも少数派であった。
- ・ 育児については、保育園の送り迎えは夫と半々に分担していた。「妻がほとんどの家事をしている」という家でも、夜は、妻が食事の支度ができるように、夫は子どもの面倒を見ている、というパターンが多くみられた。
- ・ 多くの人が保育施設以外のインフォーマルな育児支援を受けている。「偶然、気のいい年配の女性が近所にて、(時には無料で)預かってもらえるようになった」といった話も多くあった。確かに、「偶然」ではあるだろうが、隣人に手をさしのべる人が多かれ少なかれ存在し、それがインフォーマルな育児支援として機能し、子育てをしやすい社会的雰囲気を作り上げていると推測される。
- ・ 利用中の保育施設については、ほとんどの親が満足していたが、過去に利用した施設についての評価は様々であった。
- ・ 子育て中の孤独感やストレスは、仕事を全くしていなかった時に多くあったと報告された。
- ・ 仕事を持つこと、キャリアには、それなりの喜びを感じるが、大半の女性が、経済的に可能なら、もっと家にいて子どもと過ごし、残りの時間は、パートタイムあるいはボランティア活動などに専念したいと語っていた。
- ・ 子どもを保育所に長く預けるのは避けたい、できるだけ子どもを過ごしたい、という気持ちを多くの女性が語っていた。

3. 子育てと就労のパターン

本報告では、インタビューの中から、子どもを持った 20 人の女性について出産と仕事の関係に焦点を当てて詳しくみていく。女性の年齢は 21 歳から 46 歳まで、末子の年齢は数ヶ月から 10 歳である。インタビュー協力者募集のチラシでは、6 歳以下の子どもがいることを条件としたが、参考として協力を依頼した 7 歳以上の子どもがいる人も含めて見ていく。(本報告ではすべて仮名を使用する。)

20 人の女性の現在の就労状況は、現在フルタイムで働く人が 8 人 (# 2、# 5、# 6、

8、# 9、# 12、# 13（自営）、# 18）、現在パートタイムで働いている人が6人（# 3、# 7、# 10、# 11、# 14、# 15）、専業主婦、あるいはそれに近い人が4人（# 1、# 4、# 16、# 20）、そして学生が2人（# 17、# 19）であった。

彼女たちのこれまでの状況を聞くと、まず浮かび上がるのが「ライフコース」のパターンが多様なことである。現在の就労状況によって分類し、そこに至るまでの過程をまとめてみると、次のようになる。

（1）現在フルタイム勤務の女性：

a. 出産前から同じ職場・職業

まず、現在フルタイムで働いている人で、出産前から同じ職場あるいは同じ職業についている3人を見てみる。20人のうち、子どもが産まれた後も、パートタイムに変更したりせず、常にフルタイムで働いてきたのは3人で、出産前も出産後も、同じ職場に勤めている。出産後の休みは、ワンダは8週間、ゲイルは1人目の時に7週間、2人目が12週間である。ドナの場合は、8ヶ月間だけはパートタイムにしているが、あとはずっとフルタイムでやってきた。

ジャネット、ケアレン、クリスティーンは、ある一時期辞めた、またはパートにしたが、後にフルタイムで働いている。ジャネットは、14年間パートタイムをし、末子が3歳の時ディレクターに昇格し、フルタイムで働いている。パートが長く続いても、昇格できる職場環境が伺われる。クリスティーンは、第1、2子出産後は家に居て、後フルタイムで1年間はたらいた後、別の職場でパートタイムにし、第3子出産を含めて5年間パートで働き、また別の職場に移り、フルタイムになった。第4子出産後もフルタイムである。彼女の場合、看護婦という職業柄、比較的職場を変えることが容易であったようだ。フルタイムであってもパートタイムであっても、なるべく日中だけのシフトの職を探してきた。

ケアレンは子どもが産まれる前はシェフとして雇用されており、子どもが産まれてからは、夫と2人でレストランを始めて、フルタイムで働いている。彼女は、他のレストランやホテルに勤めていたときにはあまり時間が自由にならなかったため、夫も自分も子どもと少しでも多くの時間を過ごせるために、自営業を始めたとのことである。

b. 出産後、今の職・職業についての人

次のカーラ（# 6）とクリス（# 12）の場合は、出産後、今の職業につくようになった。カーラは、高校在籍中に結婚と出産をし、卒業後は働かず、20歳で2人目を産んだ。下の子が6歳になってから初めて病院で補助看護婦をした。下の子が9歳、本人が29歳のときに離婚し、いくつかパートをかけもちながらコミュニティーカレッジにも通った。33歳で再婚し、35歳からフルタイムでアルコール中毒患者のリハビリ施設で働くようになる。36歳で出産した後も、6週間産休を取り、もとの職に戻った。2年前からは、同じ職場の別の部署でフルタイムではたらいている。今後、大学でこれまでの経験を生かし

た職を探したいとの希望をもっている。彼女の場合、フルタイムで働き出したのは35歳になってからである。ある意味では、遅いスタートであるが、職を見つける事ができ、今後の展望も明るいようであった。

クリスは、子どもが未熟児で特別なケアが必要だったことがきっかけで、出産後に資格を取り、看護婦になっている。18歳で結婚し、ベーカリーで働き、22歳で出産し、その後一年間は家にいた。子どもが2歳になってから、またベーカリーで働きながら、看護学を学び、26歳で看護婦の資格を取り、フルタイムでつとめる。第2子を妊娠中、4ヶ月休み、出産後は2ヶ月休む。その後はほとんどの時をフルタイム、ときにはパートタイムでつとめる。正看護婦の資格取得のため、パートタイムで学校にも行き、末子が6歳で、フルタイムの正看護婦としてつとめるようになった。

この2人の例は、出産後に資格をとり、仕事をみつけ、それでずっとやって行くのか可能なことを示し、社会の柔軟性の現れとも言えよう。

(2) 現在パートタイム：

a. 出産前と同じ職・職場で働く人

4人の子どもを持つナンシーは獣医の資格を持っており、双子を出産する前はフルタイムでやっていた。出産後2年間は働かず、子ども達が2歳になって、自宅で獣医業をやるようになった。その後、2人の子どもを養子にし、末子が3歳になってからクリニックでパートで働いている。ずっと獣医ではあるが、働き方はフルタイム、自宅で、パートタイムとその時々状況に応じて変化させてきている。

ケアレンは5人の子どもを持ち、教育関係の仕事ということでずっと一致してやってきている。始めは幼児教育の専門でナーサリースクールで教え、後2人目を出産してから大学院に通いだした。3人目を出産後、修士をとり、その後は大学でパートタイムで教えている。子どもが多いので、とてもフルタイムで勤める余裕はなく、現在は夫が音楽関係のお店を開店し、その手伝いもあり、非常に忙しいという印象であった。周りの友人達もナンシーは特に忙しい人だ、と盛んに言っていたのが印象的だった。しかし5人を育てながらも、大学院に行き、仕事を続けている。

ホーリーは出産後、三ヶ月の休暇を取ったが、感情があまり安定しておらず、かなり手がかかることもあり、そのまま仕事には戻らずにやめようと思った。しかし、職場の方から、休暇を延長していいから続けてくれと頼まれ、出産11ヶ月後から週10時間、14ヶ月後から20時間のパートタイムで働いている。あまり乗り気ではないが、週20時間以上の勤務であれば、基本的な保険や社会保障があるので、利点もあると語っていた。

アンは正式な意味ではほとんどフルタイムで働いていないが、車のディーラー、セールス関係の仕事で活躍しており、売り上げなどの成績により、時間は短縮していても職場での扱いはフルタイムという感じであった。交渉によって、保育園の迎え時間に合わせて勤務時間を調整しているクリエイティブな働き方をしている。しかしそのような制度がある

のではなく、自分で個人的な交渉でそうしている。

エリザベスは大学の事務職をしており、出産後は時間を減らして働いている。二年間のブランクがあったが、同じ部署に戻っている。募集のときにすでに30時間ということだったので、交渉もなしにその時間分働いている。しかしそのポジションはあと数週間で契約が切れるので、また大学の他の部署でパートタイムの職を探すつもりだという。彼女は出勤する日はフルタイムと同じだけ働けるようにしている。通勤の回数で失われる時間、時間に関わらず子どもを預ける費用は同じなので、労働時間が同じで働く日数が増えることはとても損だと感じている。ティナは子育てのコストを自分から口にした数少ないインタビュー協力者であった。

b. 出産後、別の職業

ティナは、離婚するまではどこかに勤めるというのではなく、助産婦補助を希望する人と契約をし、イレギュラーでやっていた。離婚後、子どもの通う自主学校で、ちょうどディレクターを募集していたので、そこで働くようになったとのことである。

パートタイムの人達は、それぞれの事情に応じ、意識的に働く時間、子どもとの時間、子どもを預けるコスト（経済的、精神的）、得られる収入、働き甲斐など常に比較しバランスさせながら調整していることが伺われた。フルタイムの仕事が見つからないからやむを得ず、ということ語った人はいなかった。また今後、必要があれば、また自分が望めばフルタイムの仕事もあるだろう、と楽観的のようだった。

(3) 現在フルタイムの学生

フルタイムで大学院に通うジェシカは、子どもが2歳の時から小学校の先生をし、2人目が生まれしばらくは家にいたが、夫の転勤で大学の近くに越してきたことをきっかけとして、現在は教育学の修士を目指している。

ニッキは、高校卒業後デパートで働いていたが、離婚を機に、24歳になってからパートタイムで働きながら大学に通い始めた。当初は始めはやって行く事ができるかどうか分からない、とうことでパートタイムから入り、2年後かフルタイムで学部生をやっている。

(4) 現在専業主婦

現在（ほとんど）専業主婦である4人のうち、2人は意図的に選び取ったことを強調していた。「子どもは自分の手で育てたい」と強く考えているのがステファニー、子どもの近くにいたいし、お金を稼ぐことに疑問を抱いているのがキムで、40歳以上で、末子もすでに10歳以上である。ブランディーは、初めての出産で3つ子が生まれ、一辺に3人の母親になり、それだけで大変で、働くことは考えられなかったという。現在、週に6時間程度は働いているが、大学を卒業しない限り、十分な収入のある職は得られないと思う